



Test of Legal Proficiency

法学検定試験

2023年受験要項

「法学を学んだ」「法学部を卒業した」と
自信をもって言えますか？

～学んだことを「合格」という証に！～

試験日：2023年11月26日(日)

● 出願期間：9月12日(火)～10月12日(木)

● 願書提出締切：10月13日(金)

● 受験料：(税込み)

ベーシック〈基礎〉コース……………4,400円

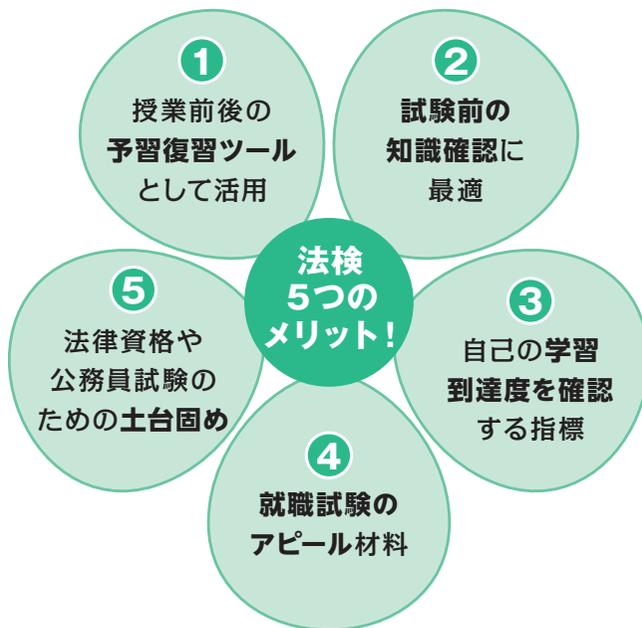
スタンダード〈中級〉コース……………6,600円

アドバンスト〈上級〉コース……………9,900円

ベーシック・スタンダードセット* ……8,800円

スタンダード・アドバンストセット* ……13,200円

*セット割引は2つのコースをセットで申し込んだ場合のみ適用されます



● 試験実施に関する情報は、随時公式ウェブサイトでお知らせしますので、必ずご確認ください

法学検定試験委員会事務局

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント3階

Tel: 03 (6262) 6730 受付時間 10:00～17:00 (12:00～13:00、土・日・祝日除く)

E-Mail: houken_since2000@jimu-kyoku.net

※お電話でのお問い合わせは受験者ご本人に限らせていただきます。その他のお問い合わせはメールでお願いします。

公式ウェブサイト:

<https://www.shojihomu.or.jp/hougaku/index>

Twitter:  @houken_since00



法学検定試験委員会 (公益財団法人 日弁連法務研究財団 公益社団法人 商事法務研究会)

後援: 株式会社 三省堂 株式会社 商事法務 株式会社 有斐閣 (五十音順)

法学検定試験の概要

「法学検定試験」とは

「法学検定試験」は、公益財団法人日弁連法務研究財団と公益社団法人商事法務研究会が共同で組織した法学検定試験委員会が実施している、法学全般に関するわが国唯一の検定試験です。

法学検定試験4級・3級を2000年から、2級を翌2001年から実施していましたが、法科大学院が定着したことを受けて、2012年から新制度で実施することとなり、現在はベーシック〈基礎〉コース・スタンダード〈中級〉コース・アドバンスト〈上級〉コースの3つのコースを実施しています。これらの試験は、法学に関する学力を客観的に評価するわが国唯一の試験として、大学での単位認定、企業の入社・配属時の参考資料等、さまざまな場面で利用されております。

法学検定試験委員会とその組織

公益財団法人日弁連法務研究財団と公益社団法人商事法務研究会は、法学検定試験を共同で実施するため、その企画・実施の機関として法学検定試験委員会を設置し、その事務局を公益社団法人商事法務研究会内に置いています。

主催団体

■公益財団法人 日弁連法務研究財団 (1998年設立)

日本弁護士連合会が中心となって設立された公益財団法人で、一段と複雑・多様化、高度化、国際化しつつある法律問題に対応すべく、弁護士、公認会計士、税理士、弁理士、司法書士から企業の法務担当者までの広範な会員をもって構成され、適性試験事業・認証評価事業等法科大学院関連事業、法律実務の研修、法および司法制度の研究、法情報の収集と提供を通じて社会の発展に貢献することを目的としています。

■公益社団法人 商事法務研究会 (1955年設立)

経済活動に係る法制度に関する調査研究を行うとともに、社会への法律知識の普及・啓発活動を行うことにより、公正かつ自由な経済活動の機会の確保・促進、その活性化による国民生活の安定向上に寄与し、経済の健全な発展に貢献することを目的とし、主に、民商事法・司法制度・環境法制・消費者法制・法教育等に関する調査研究、および法学検定試験の実施等を行っている公益社団法人です。

法学検定試験委員会

◎委員長	高橋宏志	公益財団法人日弁連法務研究財団名誉会長・東京大学名誉教授
○副委員長	山下友信	公益社団法人商事法務研究会代表理事会長・東京大学名誉教授
(五十音順)	井田良	中央大学教授
	小幡純子	日本大学教授
	初宿正典	京都大学名誉教授
	永井和之	中央大学名誉教授
	中田裕康	東京大学名誉教授・一橋大学名誉教授
	三井誠	神戸大学名誉教授
	安永正昭	神戸大学名誉教授
☆顧問	新堂幸司	公益財団法人日弁連法務研究財団名誉会長・東京大学名誉教授

(2023年4月現在)

法学検定試験5つの特徴

1. 法学全般に関するわが国唯一の検定試験

全国規模で実施され、毎年、法学部在学・出身か否かを問わず、多くの学生や社会人等がチャレンジしています。

2. 学習レベルにあった法的知識・能力が身につく(ベーシック〈基礎〉コース・スタンダード〈中級〉コース)

法学検定試験ベーシック〈基礎〉コース・スタンダード〈中級〉コースは、各科目の重要論点を網羅的にとりあげている当年度の『法学検定試験問題集』(商事法務刊)から試験問題の6~7割程度が出題されます(問題集の問題そのものが出題されるとは限りません)。問題集に沿って学習することにより、無理なく各科目全般に関する知識・能力を身につけられ、実際に試験で学習の成果を測ることができます。

3. レベル・進路にあわせコースを選択できる

ベーシック〈基礎〉コース(法学の初学者がまずはおさえておくべき基礎的なレベル)は、「法学入門」「憲法」「民法」「刑法」といった基本法についての基礎的知識・能力を測る試験ですので、日常の学習のまとめや目安として活用できます。

スタンダード〈中級〉コース(法学を学習する者が到達すべきレベル)は、「法学一般」「憲法」「民法」「刑法」の必須科目に加えて、将来の進路や学習の度合い等に応じて5科目(民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法、および憲法・民法・刑法をその内容とする基本法総合)から1科目を選択でき、基本的な条文の解釈や重要判例の理解度を測れます。各種資格試験や採用試験の腕試しとして、さらには法律学の知識・能力の到達度測定手段として利用できます。

アドバンスト〈上級〉コース(法学を専門的に学ぶ者が目指すべきレベル)は、スタンダード〈中級〉コースと同様の選択科目(基本法総合を除く)のほか、やや発展的な科目(労働法、破産法、経済法、知的財産法)を加えた中からもう1科目の選択を要求しています。将来法曹を目指すためのステップとして、また企業や官公署等において法律実務を担当しうるだけの一定水準以上の体系的な法学の実力を証明する試験として利用され、高度なレベルとなっています。

4. 就職・採用試験の場で威力を発揮

大学受験時の偏差値ではなく、大学で何を学んだかを客観的に証明するツールとして、各企業や団体等の就職・採用試験の場で威力を発揮します。

5. 法学界最高水準の陣容でバックアップ

法学検定試験委員会は、法学の各専門分野においてわが国を代表する研究者によって組織されています。また各分野の第一線で活躍する研究者によって練られた問題を水準に応じて出題しています(出題委員は非公表)。さらに本検定試験には、全国の法学研究者がその趣意にご賛同くださり、さまざまなご意見・ご指導・ご協力を得ています。

法学検定の実施状況(参考:2022年)

●ベーシック〈基礎〉コースの志願者数・実受験者数・合格者数・合格率一覧

志願者数	受験者数	平均点(60点満点)	合格点(ex)*	合格者数(ex)*	合格率
3,406名	2,927名	36.0点	33点(48点)以上	1,841名(369名)	62.9%

●スタンダード〈中級〉コースの志願者数・実受験者数・合格者数・合格率一覧

志願者数	受験者数	平均点(75点満点)	合格点(ex)*	合格者数(ex)*	合格率
1,558名	1,336名	44.8点	43点(60点)以上	757名(143名)	56.7%

●アドバンスト〈上級〉コースの志願者数・実受験者数・合格者数・合格率一覧

志願者数	受験者数	平均点(55点満点)	合格点(ex)*	合格者数(ex)*	合格率
318名	248名	27.5点	33点(39点)以上	64名(22名)	25.8%

*exはexcellent合格を示す

法学検定試験各コース実施要項

受験資格

「法学検定試験」は、どなたでも受験することができます。受験資格は一切問いません。

ベーシック〈基礎〉コースとスタンダード〈中級〉コース、スタンダード〈中級〉コースとアドバンスト〈上級〉コースは併願することができます。併願する場合は、セットで申込みをした場合にのみ受験料の割引があります。

試験科目・試験時間

●ベーシック〈基礎〉コース（4科目・合計60問〔法学入門10問／民法20問／その他各15問〕）

試験科目	解答時間	集合時刻	試験時間
法学入門 憲法 民法 刑法	120分	9:40	10:00～12:00

●スタンダード〈中級〉コース（5科目・合計75問〔法学一般10問／民法20問／その他各15問〕）

必須科目	※選択科目	解答時間	集合時刻	試験時間
法学一般 憲法 民法 刑法	「選択科目A群*1および基本法総合*3」から1科目選択	150分	13:40	14:00～16:30

●アドバンスト〈上級〉コース（6科目・合計55問〔法学基礎論10問中5問選択／その他各10問〕）

必須科目	※選択科目	解答時間	集合時刻	試験時間
法学基礎論 憲法 民法 刑法	「選択科目A群*1」から1科目、「A群およびB群*2」からもう1科目選択	150分	9:40	10:00～12:30

※選択科目は試験当日に選択。選択科目の詳細は、本要項6頁～7頁参照。

*1 選択科目A群 ①民事訴訟法 ②刑事訴訟法 ③商法 ④行政法

*2 選択科目B群 ⑤労働法 ⑥破産法 ⑦経済法 ⑧知的財産法

*3 基本法総合 憲法・民法・刑法から必須科目とは異なる問題を出題

試験開始20分前から試験に関する説明を行いますので、上記の集合時間までに指定された座席に必ず着席してください（遅刻厳禁）。なお、試験開始時間に指定された座席に着席していない場合、受験をお断りします。

法令基準日・出題形式・解答方式

出題は、原則として2022年10月1日現在施行されている法律およびそれまでに出示された判例を基準とします。出題形式は多肢択一形式、解答方式はマークシート方式です。出題範囲やレベル等の詳細については、本要項6頁～7頁のほか、各コースの『問題集』『過去問集』および公式ウェブサイトをご覧ください。

試験会場

〈一般会場〉

札幌市、仙台市、東京都（A地区・B地区）、愛知県、京都市、大阪府、岡山市、愛媛県、福岡市、沖縄県の全国11地区で実施します（東京A地区：23区および23区に隣接する市、B地区：東京西部）。出願時に希望地区を選択してください。なお、具体的な試験会場は受験者個別に受験票にて通知します。指定された受験地区・試験会場の変更はできません（複数の会場で実施する地区〔東京A地区等〕がありますが、出願時に希望会場を指定することはできません）。

※試験当日の会場詳細については「受験票」でお知らせします。受験票発送前にお電話によるお問い合わせをいただいてもお答えできません。また、前年の会場をお知らせすることもできませんのでご了承ください。

〈団体会場〉

各団体等と法学検定試験委員会が協議のうえ指定した会場で実施します。2023年度「一般受験者受入団体会場」はありません。

*試験が実施されなかった場合の措置

天災（地震・台風）等により法学検定試験委員会が試験の中止を判断した場合は、受験者には受験料全額の返金をいたします。ただし、試験が実施されなかったことにともなう受験者の不便、費用、その他の個人的損害については法学検定試験委員会およびこれを組織する団体は一切の責任を負いません。

正解の公表

正解は、試験の翌日17時までに、公式ウェブサイト上で公表します。

合否判定

合否判定は、法学検定試験委員会が設置する「合否判定委員会」が試験結果を分析したうえで定める合格最低点を基準として行います。ただし、受験科目中0点の科目がある受験者は、総合得点にかかわらず不合格とします。

excellent合格制度

合格者の中でも特に優秀な成績を修められた方の榮譽を讃える制度です。合格証書にその旨明記されますので、履歴書等にお書きいただけます。なお、excellent合格の基準は都度「合否判定委員会」で決定します。

成績通知書の送付

受験者全員に各科目の得点、平均点、偏差値および総合順位を記載した「成績通知書」、合格者には「合格証書」をお送りします。

試験後に住所変更があった場合には、郵便物の転送手続を行ってください。「合格証書」の再発行はいたしませんので大切に保管してください。

得点分布・平均点等の統計資料および試験結果についての講評は、2024年1月5日頃、公式ウェブサイトで公表します。なお、試験結果に関する個別の照会には一切応じられません。

【合格証書見本】



オープンバッジ*の発行

ベーシック〈基礎〉コース、スタンダード〈中級〉コース、アドバンスト〈上級〉コースのexcellent合格者には各コースのexcellentバッジを、また、スタンダード〈中級〉コース、アドバンスト〈上級〉コースの通常合格者には各コースの合格バッジを発行します。

*世界的な技術標準規格「IMS Global Learning Consortium」に準拠し発行されるデジタル証明・認証



※バッジの発行は、メールアドレスを登録された方のみとなります。詳細手続については該当者にお知らせいたします。

※バッジのデザインは変更になることがあります。

コース別各科目の出題範囲・内容・受験者のめやす

Level 1

★ベーシック〈基礎〉コース……法学の初学者がまずはおさえておくべき基礎的なレベル

法学入門	大学で法律学を学び始めた者が、最低限知っておくべき基礎知識を問う。
憲法	日本国憲法の条文、その通説的な見解、関連する基本判例の趣旨の理解など、憲法の学習にとって必要な基礎知識を問う。
民法	総則と債権法に相対的な重きを置きつつ、物権法（担保物権法は含まない）も含めて、基本的な制度について条文と通説の正確な理解度を問う。家族法や民法典に密接に関連する借地借家法等の特別法に関する初歩的な基礎知識を問う問題も含まれる。
刑法	刑法総論の基礎知識を中心に、刑法各論に関しては特に重要な犯罪類型にかかわる基本的事項を問う。

Level 2

★★スタンダード〈中級〉コース……法学を学習する者が到達すべき必須レベル

法学一般	大学で法律学をある程度学んだ者として、知っておくべき基礎知識を問う。
憲法	憲法の基礎知識があることを前提にして、憲法上の主要論点にかかわる学説・判例のより深められた理解力、推論して考える力を問う。
民法	民法典全分野における基本的な法制度について、判例を含めて、簡単な事例問題も用いて、正確に理解しているか否かを問う。密接に関連する制度の相互関係を問う問題や特別法（一般法人法、借地借家法、等）に関する基礎的な問題も含み、担保物権法については初歩的な基礎知識を問う問題に限る。
刑法	刑法全般に関する主要なテーマについて、判例・学説の基本的な理解力を問う。総論についてはすべてにわたるが、各論については個人的法益に対する罪（特に財産犯）を中心とし、社会的法益・国家的法益に対する罪からは基本的問題を出題する。

+選択科目1科目

(民事訴訟法・刑事訴訟法・商法・行政法・基本法総合から1科目選択)



民事訴訟法	総論、裁判所、当事者・代理人、訴えの種類・対象、訴え提起の手続・訴訟の進行、口頭弁論から判決に至る一連の民事訴訟手続に関する全体的な制度の基本的な仕組みと初歩的な法的知識・理解力を問う。多数当事者訴訟、上訴・再審等については、とりあげない。
刑事訴訟法	犯罪の捜査、公訴の提起、公判手続、証拠法、裁判、上訴という刑事手続の流れに沿い、刑事手続の基本原則、制度の基本的な仕組みと初歩的な法解釈上の論点に関する知識・理解力を問う。
商法	会社法に関する基本的な法制度と若干の実務的な内容を中心に、商法総則、商行為法総則の初歩的な内容も範囲とする。企業に関する私法規制の基礎知識と単純な事例を通しての法的理解力を問う。
行政法	広義の行政法総論が主たる出題範囲である。狭義の行政法総論のほか、国家補償法や行政訴訟法についての基礎知識を問う。行政法各論特有の問題は基本的には出題しないが、総論との関係で必要な事項は学習しておくことが望ましい。
基本法総合 (憲民刑複合)	基本的には、スタンダード〈中級〉コースの憲法・民法・刑法の出題範囲・内容と同様である。しかし、やや難易度の高い問題や他の法分野との境界領域の問題も出題範囲とするので、憲法・民法・刑法のより深い理解が求められる。

Level 3

★★★アドバンスト〈上級〉コース……法学を専門的に学ぶ者が目指すべき上級レベル

法学基礎論	法哲学、法社会学、比較法、日本法制史、司法制度論、法的思考の基礎から出題する。上級者としては、実定法の知識だけではなく法規範の成り立ちや解釈の基礎についても学習をし、理解を深めてほしい。
憲法	学説については、各説の論拠とその当否を論じ自説を展開できるか、判例については、争点および判決要旨に加え、事案の内容・判決の理論構成・有力な反対意見・学説の論評等を理解しているか、比較憲法については、概括的であれ主要国の憲法史・憲法理論・憲法運用の実際を理解しているかなどが問われる。
民法	担保物権法、親族法・相続法を含む民法典全分野、および、特別法（一般法人法、借地借家法、消費者契約法、利息制限法、製造物責任法、区分所有法、動産・債権譲渡特例法）についても理論上・実務上重要なものは出題範囲に含める。
刑法	刑法典全般に及び、刑法総論については判例・学説の基本的知識および応用力を問う。刑法各論についてはすべての犯罪類型について正確な知識を要求する。

＋選択科目1科目

(A群から1科目、A群およびB群の中からもう1科目の合計2科目選択)



【A群】

民事訴訟法	複雑訴訟、多数当事者訴訟、上訴・再審、特別手続も範囲とし、裁判所法、人事訴訟法、仲裁法、民事調停法、非訟事件手続法等を含む。
刑事訴訟法	刑事訴訟手続の全分野を対象とし、刑事訴訟法・刑事訴訟規則に加え標準的な教科書で扱われる憲法についても出題範囲に含む。標準的な教科書で扱うレベルの学説・理論および基本判例の理解や、基礎的知識を具体的設例等に応用する能力を問う。
商法	会社法、商法総則、商行為法、手形・小切手法の分野から、重要な条文・判例について、制度の趣旨を踏まえて理解しているかを問う。
行政法	広義の行政法総論（国家補償法、および行政争訟法からなる行政救済法分野をも含む）が主な出題範囲となる。また、行政組織法分野の重要問題について出題することがある。スタンダード〈中級〉コース問題集の解説を踏まえた、より応用的・発展的な知識と理解力を問う。

【B群】

労働法	労働基準法、労働組合法、労働契約法などの基本的な法律を中心に、これらに関連する育児・介護休業法、労働契約承継法等についても、最低限の内容を把握していることを前提とする。また労働法は特に判例が重要であり、労働契約や労使関係、労災などにかかる中心的な判例法理の理解も前提となる。
破産法	破産法全般について基本的な理解が得られているかを問う。
経済法	独占禁止法を中心とし、関連法令を含む。民法・刑法その他の法分野でも、独占禁止法の法目的と同様に競争政策を実現する手段として登場する範囲で出題範囲に含める。
知的財産法	特許法と著作権法から各4問、知的財産法の基本的な事項から2問出題する。知的財産法についての基本的な理解を問う。

◆法科大学院の入学判定に利用

法学既修者としての学力を有しているか否かの判定材料として、多くの法科大学院で法学検定試験の成績が参考とされています。詳しくは、各法科大学院の募集要項や公式ウェブサイトでご確認ください。

出願・申込方法

申込方法・受付期間一覧

※受付期間・締切は、申込方法により異なりますのでご注意ください。

出願方法	会場	申込方法	受験料支払方法	受付期間	締切
個人申込	一般	願書郵送	特約書店もしくは 銀行振込	9月12日(火)～10月12日(木) (書店受付)	10月13日(金)消印有効
		ウェブサイト	コンビニ決済 もしくはカード決済	9月12日(火)～10月16日(月)	コンビニ決済：10月12日(木) カード決済：10月16日(月)
		コンビニ 店頭設置機械*	各コンビニ店頭	9月12日(火)～10月16日(月)	10月16日(月)
グループ 申込		申込責任者 による一括郵送	銀行振込	申込責任者にお問い合わせください	
団体申込	団体	受験者：各団体にお問い合わせください 申込責任者：ウェブサイトをご覧ください		各団体にお問い合わせください (個人申込とは受付期間・締切が異なることがあります)	

*セブンイレブン・ファミリーマート…「マルチコピー」 ローソン…「Loppi」 ミニストップ…「MINISTOP Loppi」

出願方法

出願の方法には、「個人申込」「グループ申込」「団体申込」の3種類があります。

個人申込

受験者個人で受験申込手続きをし、出願する方法です(詳細は次頁「出願から成績通知までのフロー」でご確認ください)。

原則として、全国11地区に設置する「一般会場」での受験となります(受験者は受験地区を選択)。

2023年度は「一般受験者受入団体会場」での受験はありません。

グループ申込(10名以上)・・・ゼミ・サークル・仲間同士で！

グループで受験する場合、「申込責任者(受験者でも可)」を通して受験申込手続きをし、当該申込責任者が「法学会定試験委員会事務局」に一括して出願する方法です。グループ受験申込書の入手等の詳細については、公式ウェブサイトをご覧ください。

全国11地区に設置する「一般会場」での受験となります(申込責任者が受験地区を選択)。

受験者個別に試験結果をお送りするほか、「申込責任者」宛にグループ成績・グループ受験者の成績一覧をお送りします(受験者の個人成績については各受験者による事前の承諾が必要となります)。

各コース10名以上のグループのうち、合格者上位5名の平均点が最も高かったグループを表彰します。

◎グループ受験割引について ～グループ割引制度をご利用ください(受験料消費税分割引)～

グループ割引制度があります(受験料消費税分割引)。詳しくはウェブサイトをご覧ください、ゼミ・サークルでの学習目標の設定・確認、企業内の法務研修等に是非ご活用ください。

団体申込(20名以上)・・・大学・企業単位で！

大学や企業・団体等の「申込責任者」を通して受験申込手続きをし、当該申込責任者が「法学会定試験委員会事務局」に一括して出願する方法です。団体受験申込書の入手等の詳細については、公式ウェブサイトをご覧ください。

原則として、当該団体と法学会定試験委員会が協議のうえ指定する「団体会場」での受験となります。多くの場合、団体受験の申込みをした「大学」が会場(自校実施)となります。

受験者個別に試験結果をお送りするほか、「申込責任者」宛に団体成績・団体受験者の成績一覧をお送りします(受験者の個人成績については各受験者による事前の承諾が必要となります)。

各コースの合格者数・合格率それぞれ第3位までの団体(当該コース20名以上受験が条件)を表彰します。大学としての取組みの広報にもお役に立ていただけます。

◎団体割引について

団体申込にはお得な割引特典があります。条件によって割引率が異なりますので、事務局までお問い合わせください。

出願から成績通知までのフロー（個人申込の場合）

※団体申込等、他の出願方法における日程については必ず申込責任者にご確認ください。

<p>出願書類配布開始 2023年9月～</p>	<p>■出願書類（願書・専用封筒）の入手方法 ①大学生協購買部・主要書店（特約書店等）からの入手 …特約書店等で無料配布します。 ②ウェブサイトでの出願書類の請求 …公式ウェブサイトから出願書類の請求ができます。</p>		
<p>出願受付開始 2023年9月12日（火）</p> <p>出願受付終了 【郵送申込締切】 2023年10月12日（木） （10月13日（金）【消印有効】）</p> <p>【ウェブサイト、コンビニ申込締切】 2023年10月16日（月） ※ウェブ申込+コンビニ決済の場合は 10月12日（木）</p>	<p>■申込みの方法 【郵送での申込み】 ①受験料を特約書店等へ支払う場合 特約書店等で受験料を支払い、特約書店等発行の「書店払込証書」と「願書」を「専用封筒」に入れて、<u>法学検定試験委員会事務局へ郵送してください。</u> ②受験料を指定口座へ振り込む場合 下記の銀行口座に受験料を振込み（ATM可・インターネットバンキング不可）、振込金額と振込人氏名が明記されている利用明細、振込証明書等の「<u>振込み証明書類</u>」と「願書」を「専用封筒」に入れて、<u>法学検定試験委員会事務局へ郵送してください。</u></p> <table border="1" data-bbox="463 681 1197 768"> <tr> <td>受験料振込先</td> <td>みずほ銀行 銀座支店（普通）2275905 口座名 法学検定試験委員会事務局</td> </tr> </table> <p>【ウェブサイト、コンビニ（店頭設置機械）からの申込み】 受付期間中は、公式ウェブサイトの出願専用ページ（QRコードから直接アクセスできます）または全国のコンビニ（店頭設置機械）から直接、受験の申込みができます（締切日にご注意ください。ウェブサイトから申し込まれた場合、支払方法で締切日が異なります）。 ウェブサイト、コンビニ（店頭設置機械）から直接、受験を申し込まれた場合は、<u>願書の郵送は不要です。</u></p>	受験料振込先	みずほ銀行 銀座支店（普通）2275905 口座名 法学検定試験委員会事務局
受験料振込先	みずほ銀行 銀座支店（普通）2275905 口座名 法学検定試験委員会事務局		
<p>受験票の発送 2023年11月8日（水）頃</p>	<p>■受験票の到着・写真の貼付 受験票は願書に記載された住所宛に、直接受験者に発送します（併願の場合は、コースごとに1通ずつ）。試験日より<u>6日前までに受験票が到着しない場合</u>には事務局までご連絡ください。 受験票には写真貼付欄（1ヵ所）がありますので、写真を貼付してください。写真の大きさは縦4cm×横3cmで6ヵ月以内に写した無背景、上半身脱帽、正面の証明写真に限ります。写真のコピー、家庭用プリンターで普通紙に印刷したもの、プリクラ、サングラス着用、集合写真は認められず、成績通知書を発行いたしません。試験当日に写真票は回収いたします。 受験票に記載されている内容に訂正・変更がある場合には、試験当日に会場で手続が必要です。当日会場受付でお申し出ください。</p>		
<p>試験当日 2023年11月26日（日）</p>	<p>■受験票の持参 受験票（写真貼付欄〔1ヵ所〕に写真貼付のこと）を当日必ず会場に持参してください。</p>		
<p>試験結果発送 2024年1月5日（金）頃</p>	<p>■試験結果の発送 試験結果は、願書に記載された住所宛に発送します（願書に記載された住所と現住所が異なる場合は、必ず郵便局に転送届をお出しください）。</p>		



- * 郵送による申込みの際、願書等は消印有効日までに必ず投函してください。消印有効日以降の消印のものは受理できません。
- * 受験料を特約書店や銀行に支払いまたは振り込まれても、願書等が試験委員会事務局まで到着せず、正式に受理されない場合（願書の郵送忘れ等）、申込みは無効となります。この場合、受験料の返却は当委員会の定める基準で行います。次回の受験へ振り替えることはできません。
- * 出願後は、受験料の返却または次回受験への振替は認められません。

願書の記入要領

- ※願書は黒のボールペン・万年筆等を用い、楷書ではっきりと丁寧に記入してください。
- ※願書の記入間違いが多くなっています。提出前に必ずご確認をお願いします。

出願に際しての注意事項

- 公式ウェブサイト、コンビニ店頭設置機械から直接受験を申し込まれた場合は、願書の郵送は不要です。
- 願書等に不備がある場合は、申込みを受理できないことがありますので十分注意してください。
- 受験料を払い込まずに願書を郵送された場合は受理できません。
- 受験料を払い込んでいる場合でも、願書等が郵送されていない場合、受験することはできません。
- いかなる場合も、出願後の受験コースの変更、受験地の変更はできません。

【記入例】 記入要領については、願書裏面でご確認ください。

願書提出は 2023年10月13日(金) 当日消印有効		願書		整理番号
2023. 11 「法学検定試験」				
太枠内を記入のこと（記入要領については裏面を参照）				
※ ベーシック(基礎)コースとスタンダード(中級)コース スタンダード(中級)コースとアドバンスト(上級)コース } は併願が可能です。				
① 氏名をカタカナで記入		② 受験地		●各項目はコンピュータに入力しますので楷書で、はっきりと丁寧に記入してください。
氏 ホウカク ク 名 タロウ 漢字氏名 法学 太郎		地区名 東京A 番号 03		
③ 生年月日(西暦) 19990501		*下記、E-Mail・電話は出願書類等に不備があった場合にご連絡をさせていただきますので、必ずご記入ください。		
④ 住所 〒103-0027 都道府県・市町村名・番地・アパート名・部屋番号まで記入 東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント3階		E-Mail houken_since2000@jimu-kyoku.net 電話 03-6262-6730		
⑤ 職業番号	⑥ 学号番号	⑦ 学校名コード	⑧ 専攻番号	⑨ 学年番号
5	1	3000	○△大学	1 3
⑩ 受験するコースまたはセットを選択し、番号を○で囲んでください。				
○1	ベーシック(基礎)コース			
○2	スタンダード(中級)コース			
○3	アドバンスト(上級)コース			
○4	ベーシック・スタンダードセット			
○5	スタンダード・アドバンストセット			
※下記は、該当する方のみご記入ください。				
⑪ 受験方法 (該当する方を○で囲む)				
○ 団体受験		グループ受験		
⑫ 団体名・グループ名 ○△大学				
団体・グループ責任者への個人成績の通知を承諾します。 署名 法学 太郎				
⑬ 身障者等受験特別措置を希望して申請書を添付している場合 申請書を添付している場合は右欄に手エック(☑)をしてください。				
※申請書はウェブサイトからダウンロード・印刷してください。				

② 受験地

願書裏面から希望の受験地区番号を選び、地区名と番号を合わせて記入してください(願書郵送後、指定した受験地区の変更はできません)。東京地区は、A地区(23区および23区に隣接する市)とB地区(東京西部)を設定していますが、ご希望の地区が指定されるとは限りません(Aを選択されてもB地区となることもあります)。

⑤ 職業、学校、専攻ならびに学年番号については願書裏面を、学校名コードについては本要項11頁をご参照ください。

⑥ コースまたはセット選択

スタンダード(中級)コースとアドバンスト(上級)コースの選択科目は試験当日に選択していただけます。

⑦⑧ 団体もしくはグループで出願される方のみご記入ください。(詳細は本要項8頁参照)

⑨ 身障者等受験特別措置を希望して申請書を添付している場合
身障者等受験特別措置を希望し、申請書の添付がある場合のみチェック欄にチェックマーク(☑)を入れてください。

*身障者等受験特別措置を希望する場合

公式ウェブサイトの「身障者等受験特別措置実施概要」をよく読み、「身障者等受験特別措置申請書」等必要書類一式を願書とともに事務局までお送りください。申込み方法により提出方法や提出期限に違いがありますので、お間違えのないようご注意ください。なお、「概要」や「申請書」は公式ウェブサイトからダウンロードできます。

※出願後に負傷等され、特別措置が急遽必要になった場合は、すみやかに事務局にご連絡ください。

学校名コード一覧(国立大学・公立大学、私立大学別)

【五十音順】※該当する学校が一覧にない場合は「3000」を記入してください。

国立大学	コード	公立大学	コード	国立大学	2118	奈良学園大学*3	2403
茨城大学	1008	大阪公立大学*1	1005	駒澤大学	2119	南山大学	2404
岩手大学	1001	北九州市立大学	1104	作新学院大学	2201	二松学舎大学	2405
愛媛大学	1002	高知県立大学	1110	札幌大学	2202	日本大学	2406
大分大学	1003	東京都立大学*2	1205	札幌学院大学	2203	日本文化大学	2407
大阪大学	1004	私立大学	コード	志學館大学	2204	ノースアジア大学*4	2408
岡山大学	1006	愛知大学	2001	四天王寺大学	2215	白鷗大学	2501
小樽商科大学	1007	愛知学院大学	2002	城西大学	2205	阪南大学	2512
香川大学	1101	青森中央学院大学	2003	上智大学	2206	姫路獨協大学	2502
鹿児島大学	1102	青山学院大学	2004	駿河台大学	2207	広島修道大学	2503
金沢大学	1103	朝日大学	2005	成蹊大学	2208	福岡大学	2504
九州大学	1105	麻布大学	2006	成城大学	2209	福山平成大学	2505
京都大学	1106	亜細亜大学	2007	西南学院大学	2210	富士大学	2506
熊本大学	1107	大阪学院大学	2008	清和大学	2211	平成国際大学	2507
高知大学	1109	大阪経済大学	2009	摂南大学	2212	法政大学	2508
神戸大学	1108	大阪経済法科大学	2010	専修大学	2213	放送大学	2509
埼玉大学	1201	大阪国際大学	2011	創価大学	2214	北陸大学	2510
佐賀大学	1202	岡山商科大学	2012	大東文化大学	2301	北海学園大学	2511
静岡大学	1203	沖縄大学	2013	高岡法科大学	2302	北海商科大学	2513
島根大学	1204	沖縄国際大学	2014	拓殖大学	2303	松山大学	2601
信州大学	1206	学習院大学	2101	中央大学	2304	宮崎産業経営大学	2602
千葉大学	1301	神奈川大学	2102	中央学院大学	2305	明海大学	2603
筑波大学	1302	関西大学	2103	中京大学	2306	明治大学	2604
東京大学	1303	関西学院大学	2104	帝京大学	2307	明治学院大学	2605
東京学芸大学	1306	関東学院大学	2105	帝塚山大学	2308	名城大学	2606
東北大学	1304	関東学園大学	2106	東亜大学	2309	桃山学院大学	2607
鳥取大学	1307	九州国際大学	2107	桐蔭横浜大学	2310	武蔵大学	2608
富山大学	1305	京都学園大学	2108	東海大学	2311	武蔵野大学	2609
名古屋大学	1401	京都産業大学	2109	東京経済大学	2312	山梨学院大学	2701
新潟大学	1402	京都女子大学	2110	同志社大学	2313	四日市大学	2702
一橋大学	1501	杏林大学	2111	同志社女子大学	2317	立教大学	2801
弘前大学	1502	近畿大学	2112	東北学院大学	2314	立正大学	2802
広島大学	1503	久留米大学	2113	東洋大学	2315	立命館大学	2803
福島大学	1504	慶應義塾大学	2114	常葉大学	2318	龍谷大学	2804
北海道大学	1505	甲南大学	2115	獨協大学	2316	流通経済大学	2805
三重大学	1601	神戸学院大学	2116	名古屋学院大学	2401	早稲田大学	2901
山形大学	1701	國學院大學	2117	名古屋経済大学	2402	その他	3000
山口大学	1702	*1…大阪市立大学				*3…奈良産業大学	
横浜国立大学	1703	*2…首都大学東京				*4…秋田経済法科大学	
琉球大学	1801						

【個人情報の取扱い】

1. 受験者の個人情報は、法学検定試験委員会を組織する公益財団法人日弁連法務研究財団および公益社団法人商事法務研究会が個人情報保護法の趣旨に則り、適正に管理・利用します。
2. 受験者の個人情報は、受験者の承諾なく第三者に提供することはありません。
3. 個人が特定できないように統計処理したデータは、各種研究・調査の資料として利用することがあります。

2022年表彰者一覧と表彰式の様子

👑 個人賞 (各コースの最高得点およびそれに準ずる者若干名)

ベーシック〈基礎〉コース (60点満点)		
最優秀賞 大原 大輝 (20歳) 北海道 60点		
優秀賞 D・M (20歳) 神奈川県 59点		
優秀賞 藤井 恵 (18歳) 大阪府 58点	優秀賞 村瀬 裕矢 (18歳) 北海道 58点	
優秀賞 N・F 58点	優秀賞 T・O (50代) 北海道 58点	
スタンダード〈中級〉コース (75点満点)		
最優秀賞 高橋 蒼 (15歳) 千葉県 70点	最優秀賞 藤本 佳孝 (52歳) 東京都 70点	最優秀賞 村田 葵 (19歳) 熊本県 70点
優秀賞 真壁 遼 (20代) 福島県 69点		
アドバンスト〈上級〉コース (55点満点)		
最優秀賞 新海 諒河 (21歳) 愛知県 49点		
優秀賞 星 芳夫 (74歳) 新潟県 44点		

👥 団体賞 (各コース20名以上受験の団体)

【合格率の部】

ベーシック〈基礎〉コース	
第1位 新潟大学	100%
第2位 信州大学	93.3%
第3位 茨城大学	87.7%
スタンダード〈中級〉コース	
第1位 東京経済大学 キャリアサポート・コース	80.0% (24名)
第2位 南山大学	80.0% (20名)
第3位 金沢大学	68.2%

【合格者数の部】

ベーシック〈基礎〉コース	
第1位 札幌学院大学	121人
第2位 立正大学	106人
第3位 近畿大学	103人
スタンダード〈中級〉コース	
第1位 札幌学院大学	64人
第2位 東北学院大学	32人
第3位 国士舘大学	28人

👥 グループ賞 (各コース10名以上のグループで合格者上位5人の平均点)

ベーシック〈基礎〉コース	
福岡カレッジ・オブ・ビジネス	53.2点

※団体賞はアドバンストコースは該当なし
グループ賞はスタンダード、アドバンストコースは該当なし



▲グループ賞：
福岡カレッジ・オブ・ビジネスのみなさん



▲個人賞：
新堂先生にサインをいただき記念撮影



対象者には、法学
検定試験委員会か
ら賞状・記念品を
贈り、個人賞受賞
者には、後援団体
より副賞が贈呈さ
れます。

合格者の声

合格者の声の一部を紹介します。また、ほかにも多くの方から自らの体験をお寄せいただいておりますのでウェブサイトもご覧ください。

司法試験の合格をめざして

今回私が受験した理由は、大学に入って1年以上法律を学んできて、自分が初学者の段階を抜け出せたのかを判断する具体的な客観的なデータが欲しかったからです。そして、そのデータを得るために、特に法学検定試験を選んだのは、法学検定試験委員会の委員の先生方が、法学を学んでいる者ならば誰でも一度はその名前を目にしたことがあるような著名な方ばかりで、問題の質も信頼できると感じたためです。優秀な成績を取れば、表彰式で先生方にお会いできるのではないかと期待も大きなモチベーションになりました。また、もう一つの試験を受けた理由をあげるとすれば、後述のように私は司法試験を目指しているのでも、難易度の差はあるかもしれませんが、司法試験の短答式試験の練習にもなったからです。ベーシック(基礎)コースの憲法、民法、刑法の中で、とくに刑法は条文知識や暗記だけではなく理論的な意味も多く、頭の使い方が学べたと感じました。

勉強方法に関して、法学検定試験のためだけにやったことは、3週間程前から公式の問題集を1周解いて、間違えた問題に関して大学の授業のレジュメや基本書などで確認し、似たような問題が出て大丈夫なように復習するといった程度のことでした。というのも、当該試験の点数をとるためだけの勉強をしても意味がないと思ったからです。ベーシックコースを受けるであろう初学者は特に、普段の法律の学習の中で身につけた知識や思考方法を第一的には頼り、あくまで二次的に、問題の傾向や知識の穴の把握をするために公式問題集を使うことで、本当に自分が法律を理解し始めているのかを確かめることができると思います。復習において大学のレジュメを使ったのは、それを読むことによって、これまで学んだ、公式問題集には出てこない知識の記憶も喚起され、科目全体の復習にもつながると考えたからです。ただ、本当に法律を始めたばかりの方であれば、まだ復習するための教材などもそろえていないと思いますから、まずは公式問題集を何度も解いてその中で必要な知識をインプットするという方法も良いと思います。

私の最終目標としては、司法試験に合格し法曹になることですが、その途中では法学検定のスタンダード(中級)コースや行政書士試験、法科大学院入試の合格も目指しています。今回のベーシックコースの結果を受けて、自分の法学の勉強の方針は、ある程度合っていることが確認できたので、この結果に慢心することなく、これから目標に向けて地道に努力を重ねていきたいと思っています。

少しでも、初学者の方に参考になれば幸いです。

(ベーシック(基礎)コース・最優秀賞・大原大輝・20歳・北海道)

本質的で楽しい法律学習へ

僕はある大学の一貫教育校に在学している中学3年生です。裁判の傍聴をしたことがきっかけで法曹、特に刑事弁護を扱う弁護士を志すようになり、現在、高校・大学在学中に司法試験予備試験に合格することを目指して勉強しています。今年度の法学検定試験を受験したのは、これまでに学んだ法律知識を再確認するとともに、現在の自分の実力を試したかったためです。

試験対策の勉強は、公式問題集を用いて約1か月前から始めました。具体的な方法としては、まず問題を一通り解いていき、間違えた問題や、正解はしたが理解の浅い問題に付箋を貼っていくという方法をとりました。このとき、前者には赤色、後者には黄色の付箋を貼ることで自分の理解度が視覚的にわかりやすいようにします。そして、付箋のついた問題については、解説を読むだけでなく、六法で条文を引いたり、基本書や判例集にあたってマークしたりすることでより本質的な理解が得られるようにしました。これを何度も繰り返すことで、最終的にはほとんどすべての問題について理由付けとともに正解を導き出せるようになりました。スタンダード(中級)コースの試験問題は問題集からの出題が多いので、解答を丸暗記してしまうということもできなくはないですが、そうではなくきちんと論理構成を理解するというところにこだわりました。

このような学習をしたことによって、今年度の試験で最優秀賞という高い評価をいただけただけでなく、以前学習したものの忘れかけていた分野や論点などについて理解し直すことができました。そして、それまで曖昧にしか理解できていなかったことを、明確な理由付け・論理構成で本質的に理解できたときの楽しさや面白さを感じることができ、知的な好奇心が大変満たされるような勉強ができたと思います。

法律学習は、条文知識や判例を暗記する学習だと考えてしまうと苦痛に思えます。しかし、そうではなく、論理構成や理由付けをはっきりとらえて論点を理解し、それを条文とともに体系化して身につけていくという学習であると考えれば、とても楽しく魅力的な学習にみえてくるのではないだろうか。

今回の試験によって、さまざまな知識を再確認できただけでなく、これまでよりさらに法律学習が楽しいと思えるようになりました。これからも日々努力を続け、アドバンスト(上級)コースの受験も視野にいれつつ、予備試験合格という第一の目標を達成したいと考えています。

(スタンダード(中級)コース・最優秀賞・高橋蒼・15歳・千葉県)

法学の基礎知識の定着に

学内で法学検定試験の案内があった際、信州大学経済学部総合法律学科では毎年多くの学生が法学検定を受験しているとのことと、興味を持ちました。また、後期から本格的な法学の授業が始まりましたが、ただ講義を聞いているだけでは知識が定着していないと感じていました。ベーシック(基礎)コースは、法学の初学者も挑戦しやすいとのことだったので、講義で得た知識の定着のために受験を決めました。

ベーシック(基礎)コースは憲法、民法、刑法といった法律の基本的な知識が問われますが、出題範囲には授業で扱っていない分野も含まれていました。そこで、知らない条文や学説、判例の理解を優先して学習を進めました。まずは公式問題集の問題を解き、知らない条文や学説、判例が出てきたらテキストや問題集の解説をよく読むようにしました。また、過去に解いた問題について授業で扱ったときは、問題をもう一度解くことで復習になりました。1年生の判例にとっては新たに知ることが多く、学習するのは大変でしたが、問題集やテキストを繰り返し読み込むことで徐々に知識が定着しました。公式問題集には重要な条文について様々な角度からの問題が複数収録されており、解説も丁寧なので初学者でも学習を進めることができました。また、2周目以降は間違えた問題や理解できなかった問題に付箋を付け、特に集中的に学習しました。私は勉強を始めたのが10月と遅かったのですが、通常時間や授業間の休養を利用したので、問題集の基本的な理解を深めるのに十分な時間がとれました。

私は法学の知識の定着のために受験をしましたが、受験を通して目的が達成できたと感じます。ベーシック(基礎)コースは、基本的な法律の基礎知識を問う問題が出題されるので、授業の予習復習として活用することができると思います。今後は、スタンダード(中級)コース、アドバンスト(上級)コースの受験を通して、さらなるレベルアップを目指したいです。

(ベーシック(基礎)コース・団体賞・高山咲愛・19歳・信州大学)

法律というフィールドに関心があるシニアに是非受験してほしい

1 受験の動機

私は、現在74歳の高齢者です。60歳で地方民間企業を定年退職しその後好きな温泉巡りなどをしながら、今日まで非常勤ですが3~4の企業に月に数日出社しています。2022年10月たまたま地元で書店で散歩途上に立ち読みをしたところ、法学検定試験があることを知り、さらに学生時代の商法ゼミの恩師が法学検定試験委員を務められていることから受験への意欲が湧きました。さらに、自己の法的知識のレベル確認や体系的整理をしたいこと、および脳の老化防止も期待できることから受験を決めました。

2 勉強方法

(1) 民法、民事訴訟法および商法については、既存の知識レベルで対応できることから、法学検定試験委員会編「法学検定試験過去問集アドバンスト(上級)コース」を利用して弱点の強化・補強をすることとした。勉強時間は少なめでしたが、判例付六法を頻繁に参照し、部分的には判例百選、参考書を利用しました。(2) 憲法、刑法および法学については、まったく実力不足でした。しかし、基本書等から勉強する時間的余裕がなく、そこで「2022年法学検定試験問題集スタンダード(中級)コース」および同アドバンストコースの過去問集をたくさん読みました。①憲法については、出題傾向から重要判例の正確な理解と記憶が必要であることが分かりました。②刑法については、択一問題が多く正確な知識が要求され、また難解な分野からの出題が多いといえます。しかし、勉強すればするほど得点は伸びる科目であると感じました。③法学は、既存の知識はありませんでした。全10問の中から5問を選択する方式でしたので、法社会学、比較法、日本法制史、司法制度論を選択することとし、問題集・過去問集以外の知識は基本書学習から補足しました。(3) 試験当日の対策として、自信のある科目で、かつ組合せ問題からはじめ、見解問題や長文問題は後回しにし、難解な問題は極まず捨て問として時間を浪費しないことにしました。

3 将来の目標等(本試験の効用)

シニアにとって本試験を受験する効用は、①法的知識の整理、体系的な理解 ②自己の弱点分野の把握(私の場合改正後の債権法) ③勤務先や知人から受ける法律の相談などに資すること、さらに副次的には自己の脳の活性化です。

私は、今後とも法律というフィールドに大いに関心を持ち、仕事上も法律と何らかのかかわりを持ち続け生涯にわたる学習を継続したいと思います。

(アドバンスト(上級)コース・優秀賞・星芳夫・74歳・新潟県)

団体・グループ受験の実施状況（過去3年）

所在地	団体名	所在地	団体名	所在地	団体名	所在地	団体名
北海道	北海道大学	東京	帝京大学	山梨	山梨学院大学	兵庫	姫路獨協大学
北海道	札幌大学	東京	第一生命保険株式会社	長野	信州大学	奈良	帝塚山大学
北海道	札幌学院大学	東京	東京経済大学	静岡	静岡大学	鳥取	鳥取大学
北海道	北海学園大学	東京	東京法律公務員専門学校	愛知	愛知大学	広島	広島大学
青森	弘前大学	東京	東洋大学	愛知	南山大学	広島	広島修道大学
青森	青森中央学院大学	東京	法政大学	京都	京都女子大学	香川	香川大学
宮城	東北学院大学	東京	明治学院大学	京都	立命館大学	愛媛	松山大学
茨城	茨城大学	東京	陸上自衛隊	京都	龍谷大学	福岡	久留米大学
栃木	白鷗大学	東京	立正大学	大阪	大阪経済法科大学	福岡	福岡カレッジ・オブ・ビジネス
埼玉	平成国際大学	神奈川	神奈川大学	大阪	近畿大学	佐賀	佐賀大学
埼玉	獨協大学	神奈川	関東学院大学	大阪	四天王寺大学	熊本	熊本大学
千葉	千葉大学	神奈川	桐蔭横浜大学	大阪	摂南大学	鹿児島	鹿児島大学
東京	国土館大学	新潟	新潟大学	大阪	阪南大学	鹿児島	志學館大学
東京	専修大学	富山	高岡法科大学	大阪	桃山学院大学		
東京	中央学院大学	石川	金沢大学	兵庫	甲南大学		

※実施状況は毎年異なります

2022年の出題例

【ベーシック〈基礎〉コースよりご紹介】 **Let's challenge!!**

①

日本国憲法の定める国民の義務に関する以下の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 日本国憲法が定める権利や自由は「常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ」とされるが、この責任は、国民に対して法的義務を課すものではない。
2. 教育の義務は、子どもが普通教育を受ける義務ではなく、親が子どもに普通教育を受けさせる義務である。
3. 勤労の義務は、国民に勤労すべき道徳的義務を宣言したにすぎず、この義務を根拠に、国民に強制労働を強いることは許されない。
4. 納税の義務は、国民が自発的に履行すべきものであるから、本人の同意なしに課税することは許されない。

(B憲法 問題2)

②

詐欺罪（刑法246条）に関する以下の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. レストランで飲食をした後、所持金がないことに気がついたため、店員の知らないうちに、飲食代金を支払わずにそのレストランを立ち去った場合、詐欺罪が成立する。
2. 業者が設置した自動販売機に偽造した硬貨を投入して、商品である缶ビールを取り出した場合、詐欺罪が成立する。
3. 靴販売店において、購入の意思がないのにあるようにみせかけ、店員に店内での靴の試し履きを申し入れ、店員から渡された靴を履いた後、店員が後ろを見ている隙に、気づかれないようにそのまま店を立ち去った場合、詐欺罪が成立する。
4. 債務者が、すでに債務を弁済したと偽って、それを信じた債権者から債務弁済の要求を免れた場合、詐欺罪が成立する。

(B刑法 問題12)

解答：① = 4, ② = 4

公式問題集・過去問集

ベーシック〈基礎〉コース

レベル⇒法学部2年次程度
主な受験者：法学部1年次生～2年次生

受験科目		試験時間
必須	法学入門 憲法 民法 刑法	120分

[4科目・合計60問]
科目=法学入門10問/民法20問/その他各15問
問題集収録の4科目は必須です

合格率は例年、約60%!!

【学習教材：公式問題集 + 各科目の入門書】

『2023年法学検定試験問題集 ベーシック〈基礎〉コース』

定価 2,420円(税込)



授業前後の予習復習ツールとして問題集を利用しながら合格をめざそう

6～7割が問題集から出題*

詳細な解説付きで自習も可能!
問題集に取り組むことが合格への近道です!

*問題集の問題がそのまま出題されるとは限りません

スタンダード〈中級〉コース

レベル⇒標準的な法学部3年次程度
主な受験者：法学部2年次生～3年次生

受験科目		試験時間
必須	法学一般 憲法 民法 刑法	150分
選択	選択科目Aおよび基本法総合*から1科目	

[5科目・合計75問]
科目=法学一般10問/民法20問/その他各15問
[選択科目A]

①民事訴訟法 ②刑事訴訟法 ③商法 ④行政法
必須4科目に加え1科目選択の5科目です

合格率は例年、約55%!!

【学習教材：公式問題集 + 各科目の教科書】

『2023年法学検定試験問題集スタンダード〈中級〉コース』

定価 4,180円(税込)



・公務員試験などの受験を考える人の土台固めに
・自己の学習到達度を確認する指標として

6～7割が問題集から出題*

全8科目の問題が収録されているので
受験対策以外にも授業に有効活用可能!

***基本法総合は、憲法・民法・刑法から出題します**

問題集の憲法・民法・刑法の収録問題から6～7割が出題される他、
やや難易度の高い問題や他の法分野との境界領域の問題も出題されます

アドバンスト〈上級〉コース

レベル⇒学習の進んでいる法学部3年次～修了程度
主な受験者：法律資格を目指す法学部生
法律実務に従事する公務員や法務スタッフ

受験科目		試験時間
必須	法学基礎論 憲法 民法 刑法	150分
選択	選択科目AおよびBから2科目*	

[6科目・合計55問]
受験科目=法学基礎論10問中5問選択/その他各10問
[選択科目A]

①民事訴訟法 ②刑事訴訟法 ③商法 ④行政法
[選択科目B]

⑤労働法 ⑥破産法 ⑦経済法 ⑧知的財産法

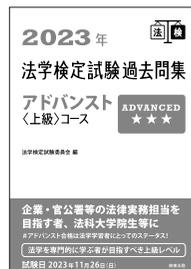
*選択科目Aから少なくとも1科目選んでください
必須4科目に加え2科目選択の6科目です

合格率約20%の難関コース!!

【学習教材：公式過去問集 + 各科目の基本書 + 各種判例集】

『2023年法学検定試験過去問集アドバンスト〈上級〉コース』

定価 3,850円(税込)



・より上位の法律資格や公務員試験を目指す方のステップとして
・意識の高い学生生活を送るために

過去3年分の過去問を収録
過去問で傾向に慣れよう!

**過去問集のため、この中からの出題はありません
問題集ではありませんのでご注意ください**

ハンディ六法のトップセラー!



ポケット六法

令和5年版

編集代表 佐伯仁志
大村敦志 B6判 2200円
荒木尚志 978-4-641-00923-3

やさしい・おもしろい・あきないテキスト



いちばんやさしい 憲法入門 第6版

初宿正典 著 有斐閣アルマ 四六判
高橋正俊 1760円
米沢広一 978-4-641-22150-5
棟居快行

民法全分野を1冊で学ぶ



民法(全) 第3版

潮見佳男 著 A5判 5060円
978-4-641-13885-8

刑法の基本を凝縮した入門書



現代刑法入門

第4版

浅田和茂 著 有斐閣アルマ 四六判
内田博文 2420円
上田寛 978-4-641-22149-9
松宮孝明

条文の読み方 第2版 四六判 990円
法制執務・法令用語研究会 著 978-4-641-12626-8

判例の読み方 シッシー&ワッシーと学ぶ 青木人志 著
四六判 880円 978-4-641-12595-7



有斐閣

〒101-0051 千代田区神田神保町2-17
〔表示価格は税込〕

<https://www.yuhikaku.co.jp/>

スマホ対応の最新eラーニング学習システム



「法学検定試験学習ツール」

法学検定試験委員会編『法学検定試験問題集』当該年度版収録！
スマホやパソコン等で、いつでも・どこでも楽しく学習できます！



「法学検定試験学習ツール特設サイト」開設中!

<https://sp.lawlibrary.jp/lgs/hrcontents/houken/trial.html>

「紹介動画」「トライアル」「正式申込」もこちらからご利用いただけます!



【お問合せ先】

株式会社TKC 東京本社リーガルデータベース営業本部
〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル2F

E-mail: hrrsupport@tkc.co.jp